英文法 L01 第 2 講 品詞の見分け方

学習目標

- 文中の基本語を、名詞・動詞・形容詞・副詞・代名詞・前置詞・接続詞などの働きから識別できる。
- 品詞と、その語が文中で果たす役割を区別できる。
- 前置詞句を一まとまりとして見て、句と節の基本的な違いを説明できる。

解説

品詞と文中の役割

英語の文を読むときは、まず「その語は何という種類か」を見る。これが**品詞**である。次に、「その文の中で何をしているか」を見る。これが**文中の役割**である。

たとえば kind は形容詞という品詞を持つ。Ken is kind.（ケンは親切だ。）では、Ken の状態を説明する働きをしている。一方、a kind student（親切な生徒）でも kind は形容詞で、student の性質を説明している。品詞が同じでも、文中での位置や働きは文によって変わる。

見るもの	考えること
品詞	その語は名詞・動詞・形容詞など、どの種類か
文中の役割	その文で、何を表す・説明する・つなぐなどの働きをしているか
まとまり	いくつかの語が一つのまとまりとして働いているか

品詞を決めるときは、語尾だけで判断しない。語尾は手がかりになることがあるが、文中での働きや前後関係を見る必要がある。たとえば friendly は -ly で終わるが、She is friendly.（彼女は親しみやすい。）の friendly は形容詞である。

基本の 7 つの品詞

名詞
人・物・場所・ことなどを表す語である。

- student（生徒）
- book（本）
- school（学校）

文中では、名詞が「何について述べているか」を表したり、動作の対象を表したりする。

動詞
動作や状態などを表す語である。

- run（走る）
- read（読む）
- be（〜である、〜にいる）

文の中で「何をする・どういう状態か」を述べる中心になる。

形容詞
人や物などの性質・状態を説明する語である。

- kind（親切な）
- young（若い）
- happy（幸せな）

©ミライコーチング

名詞を説明することが多い。また、Ken is kind.（ケンは親切だ。）のように、主語の状態を説明することもある。

副詞
動詞や形容詞などを詳しく説明する語である。

- quickly（素早く）
- very（とても）
- well（上手に、よく）

Yuki spoke well.（ユキは上手に話した。）なら、well は「どのように話したか」を詳しくしている。

代名詞
名詞の代わりに、人や物などを指す語である。

- I（私）
- she（彼女）
- it（それ）
- they（彼ら、それら）

同じ名詞を何度も繰り返さずに指し示すために使う。

前置詞
名詞などのまとまりの前に置かれ、場所・方向・時などの関係を示す語である。

- in the room（部屋の中に）
- at school（学校で）
- to school（学校へ）

to school のように、前置詞と後ろの名詞を含めて一つのまとまりとして見ることができる。

接続詞
語やまとまり同士をつなぐ語である。

- and（そして）
- but（しかし）
- because（なぜなら、〜なので）

Tom and Ken ran.（トムとケンは走った。）では and が Tom と Ken をつないでいる。後の講では、節をつなぐ接続詞も扱う。

同じ形の語でも、文中での働きによって品詞が変わることがある。語尾だけで決めず、その文の中で何をしているかを見る。

ポイント

見分けるときの手順

1. その語が何を表しているかを見る。
2. その語が、前後のどの語を説明したり、つないだりしているかを見る。
3. 2 語以上のまとまりなら、一語ずつではなく全体の働きも見る。

特に、**品詞は「語の種類」、文中の役割は「その文での働き」**と分けて考える。

解説

句と節

句と節は品詞ではなく、複数の語などがまとまってできる単位である。

述語とは、主語について何をする・どういう状態かを述べる部分である。

句は、この講の基本例では、主語と述語の組を含まない語のまとまりとして導入する。to school は to と school がまとまって一つの意味を作るので、前置詞句と呼ぶ。

節は、この講の基本例では、主語と述語の組を含む語のまとまりとして導入する。she runs（彼女は走る） なら、she が主語、runs が述語になっているので節である。

これは本講の基本例を理解するための導入上の定義であり、非定形節などを含むすべての英文分析についての絶対的な定義ではない。

種類	本講の基本例での見方	例
句	主語と述語の組を含まないまとまり	to school
節	主語と述語の組を含むまとまり	she runs（彼女は走る）

「何語あるか」ではなく、**主語と述語の組を含むか**を手がかりにする。

1

Birds sing loudly in the park.

loudly について、正しい説明を 1 つ選べ。

- A. loudly は人や物などを表す名詞である。
- B. loudly は動作や状態を表す動詞である。
- C. loudly は名詞の性質を説明する形容詞である。
- D. loudly は sing がどのように行われるかを詳しくする副詞である。

解答・解説

正解は **D** である。

loudly は「どのように歌うか」を詳しく説明している。したがって、品詞は副詞である。-ly という形だけでなく、sing という動作を詳しくしていることから判断する。

- A. 誤り。loudly は人・物・場所・ことなどを表していない。
- B. 誤り。loudly 自体は動作や状態を述べず、sing を詳しくしている。
- C. 誤り。loudly は名詞の性質を説明しているのではない。
- D. 正しい。loudly は sing がどのように行われるかを詳しくする副詞である。

Birds sing loudly in the park.
副詞：sing を説明 [loudly]: “loudly”

Pair 1

Birds sing loudly in the park.

鳥たちは公園で大きな声で歌う。

2

We went to school after lunch.

to school について、正しい説明を 1 つ選べ。

- A. to school は人や物などを表す名詞である。
- B. to school は動作や状態を表す動詞である。
- C. to school は前置詞 to と名詞 school を含む前置詞句である。
- D. to school は主語と述語の組を含む節である。

解答・解説

正解は **C** である。

to school は、前置詞 to と名詞 school を含む一つのまとまりである。主語と述語の組を含まないため、本講の基本例では句として扱う。前置詞 to だけでなく、to school 全体で見ることがポイントである。

- A. 誤り。to school 全体は一語の名詞ではなく、前置詞と名詞を含むまとまりである。
- B. 誤り。to school 全体は動作や状態を述べる動詞ではない。
- C. 正しい。前置詞 to と名詞 school を含む前置詞句である。
- D. 誤り。to school には主語と述語の組がないため、本講の基本例では節ではない。

We went to school after lunch.
前置詞句 [prep_phrase]: “to school” / to と school を含むまとまり

Pair 1

We went to school after lunch.

私たちは昼食後に学校へ行った。

注意

語尾だけで決めない

-ly などの語尾は、品詞を考える手がかりになることはある。しかし、語尾だけで品詞を確定してはいけない。まず文中の働きを見る。She is friendly.（彼女は親しみやすい。） の friendly は、She の状態を説明する形容詞である。

演習問題

1

次の空所に入る語として最も適切なものを選べ。

___ are here in the classroom.

- A. Books
- B. Quickly
- C. Under
- D. Opened

2

Mika runs daily before breakfast. について、正しい説明を 1 つ選べ。

- A. Mika は動作を表す動詞である。
- B. runs は動作を表す動詞として働いている。
- C. daily は動作を表す動詞である。
- D. runs は名詞なので、ここでは「毎日」という意味を表している。

3

Ken is kind to new students. について、kind の説明として正しいものを 1 つ選べ。

- A. kind は人や物を表す名詞で、Ken を指している。
- B. kind は動作を表す動詞で、Ken が何をするかを表している。
- C. kind は形容詞で、Ken の性質・状態を説明している。
- D. kind は副詞で、is がどのように行われるかを詳しくしている。

4

Yuki spoke well at the meeting. について、正しい説明を 1 つ選べ。

- A. well は物を表す名詞である。
- B. spoke は well を詳しくする副詞である。
- C. well は名詞 meeting の性質を説明する形容詞である。
- D. well は spoke がどのように行われたかを詳しくする副詞である。

5

She is my friend from school. について、She の働きとして正しい説明を 1 つ選べ。

- A. She は人を指す代名詞で、文の主語として働いている。
- B. She は人の名前を表す名詞で、文の主語として働いている。
- C. She は friend の性質を説明する形容詞である。
- D. She は friend と school の関係を示す前置詞である。

6

Tom and Ken ran across the field. について、正しい説明を 1 つ選べ。

- A. and は Ken の前に置かれているので、前置詞である。
- B. and は Tom と Ken を対等につなぐ接続詞である。
- C. Tom は動作を表すので、動詞である。
- D. ran は動作を表すので、名詞である。

©ミライコーチング

7

They met at the station. について、at the station の説明として正しいものを 1 つ選べ。

- A. at the station は人や物を表す名詞である。
- B. at the station は動作を表す動詞である。
- C. at the station は前置詞 at と後ろの語を含む前置詞句である。
- D. at the station は主語と述語の組を含む節である。

8

句と節について、正しい説明を 1 つ選べ。

She runs.

- A. She runs. は句である。主語と述語の組を含まない。
- B. She runs. は句である。runs が動詞だからである。
- C. She runs. は節ではない。短い文だからである。
- D. She runs. は節である。She が主語、runs が述語になっている。

演習問題の解答・解説

1

正解は **A** である。

Books は「本」を表す名詞で、ここでは文の主語として「ここにあるもの」を表している。

- A. 正しい。Books は物を表す名詞で、この文では「ここにあるもの」を表している。
- B. 誤り。Quickly は動作などを詳しくする副詞であり、ここで必要な名詞ではない。
- C. 誤り。Under は前置詞で、後ろの語との場所などの関係を示す。この位置で名詞として働いていない。
- D. 誤り。Opened はここで名詞として働かず、「ここにあるもの」を表す語にはならない。

Pair 1

Books are here in the classroom.

本がここ、教室にある。

2

正解は **B** である。

runs は「走る」という動作を表し、文の中で何をするかを述べている。したがって、動詞である。daily は「毎日」という意味で、runs を詳しくしている。

- A. 誤り。Mika は人を表す語であり、動作を述べる動詞ではない。
- B. 正しい。runs は「走る」という動作を表す動詞である。
- C. 誤り。daily は「毎日」という意味で、ここでは runs を詳しくする副詞である。
- D. 誤り。runs は動詞であり、「毎日」という意味を表しているのは daily である。

Mika runs daily before breakfast.
動詞 [runs]: “runs”

副詞：runs を説明 [daily]: “daily”

Pair 1

Mika runs daily before breakfast.

ミカは毎日、朝食前に走る。

3

正解は **C** である。

kind は「親切な」という性質を表す形容詞である。Ken is kind to new students. では、kind が Ken の性質・状態を説明している。

- A. 誤り。kind はこの文では人や物を表す名詞ではなく、Ken の性質を説明している。
- B. 誤り。kind は動作を表す動詞ではない。
- C. 正しい。kind は形容詞で、Ken の性質・状態を説明している。
- D. 誤り。kind は副詞ではなく、Ken の性質・状態を説明する形容詞である。

Ken is kind to new students.
形容詞：Ken の状態を説明 [kind]: “kind”

Pair 1

Ken is kind to new students.

ケンは新しい生徒たちに親切だ。

4

正解は **D** である。

well は「どのように話したか」を詳しくしているので、副詞である。品詞は語尾だけでなく、文中での働きから判断する。

- A. 誤り。well はここで物や人などを表す名詞として使われていない。
- B. 誤り。spoke は「話した」という動作を表す動詞であり、well を詳しくする側ではない。
- C. 誤り。well は meeting の性質を説明していない。
- D. 正しい。well は「話した」という動作がどのように行われたかを詳しくする副詞である。

Yuki spoke well at the meeting.
副詞：spoke を説明 [well]: “well”

Pair 1

Yuki spoke well at the meeting.

ユキはその会議で上手に話した。

5

正解は **A** である。

She は、人を指す代名詞である。この文では、誰が友達なのかを表す主語として働いている。

- A. 正しい。She は人を指す代名詞で、この文の主語として働いている。
- B. 誤り。She は人の名前を表す名詞ではなく、名詞の代わりに人を指す代名詞である。
- C. 誤り。She は friend の性質を説明する形容詞ではない。
- D. 誤り。She は前置詞ではない。friend と school の関係を示しているのは from である。

She is my friend from school.
代名詞：主語 [she]: “She”

Pair 1

She is my friend from school.

彼女は私の学校の友達だ。

6

正解は **B** である。

and は Tom と Ken という 2 つの語をつないでいる。このように語やまとまりをつなぐ語が接続詞である。

- A. 誤り。and は場所・方向・時などの関係を示す前置詞ではなく、Tom と Ken をつないでいる。
- B. 正しい。and は Tom と Ken を対等につなぐ接続詞である。
- C. 誤り。Tom は人を表す名詞であり、動詞ではない。
- D. 誤り。ran は「走った」という動作を表す動詞であり、名詞ではない。

Tom and Ken ran across the field.
接続詞：Tom と Ken を接続 [conjunction]: “and”

Pair 1

Tom and Ken ran across the field.

トムとケンは野原を走って横切った。

7

正解は **C** である。

at the station は、前置詞 at とその後ろの語を含む一つのまとまりである。主語と述語の組を含まないので、本講の基本例では前置詞句として扱う。

- A. 誤り。at the station 全体は一語の名詞ではなく、前置詞を含むまとまりである。
- B. 誤り。at the station 全体は動作を表す動詞ではない。
- C. 正しい。前置詞 at と後ろの語を含む前置詞句である。
- D. 誤り。at the station には主語と述語の組がないため、本講の基本例では節ではない。

They met at the station.

前置詞句 [prep_phrase]: “at the station” / at と後ろの語を含むまとまり

Pair 1

They met at the station.

彼らは駅で会った。

8

正解は **D** である。

本講の基本例では、主語と述語の組を含むまとまりを節として導入する。She runs. では She が主語、runs が述語になっているため、節である。

- A. 誤り。She runs. は主語と述語の組を含むため、本講の基本例では句ではない。
- B. 誤り。動詞を含むことだけで句か節かを決めるのではない。ここでは She と runs が主語と述語の組を作っている。
- C. 誤り。語数の少なさだけで節かどうかは決まらない。
- D. 正しい。She が主語、runs が述語になっており、主語と述語の組を含むため、本講の基本例では節である。

She runs.

主語と述語を含む節 [clause]: “She runs” / She が主語、runs が述語

Pair 1

She runs.

彼女は走る。